

CLOSE UP  
クローズアップ

金城学院中学校

# 加藤和幸 先生

1957年愛知県生まれ。名古屋工業大学卒業。公立学校教員の後、1989年から金城学院中学校数学科教員に。その後高等学校へ移動し数学と情報の教鞭を執る。2007年からは進路指導課長も担当。2010年キャリアカウンセラー資格取得。現在は中学校の数学を教え、今年度からは企画広報も担当。

# さまざまな経験と学びを通して 心豊かな女性に成長してほしい

大学時代の経験を通じて、教えることのやりがいに気付かれた加藤和幸先生。

金城学院高等学校で長年、数学、情報、進路指導に携わり、現在は金城学院中学校で「数学の楽しさ、奥深さを伝えたい」と、ICT(情報通信技術)を取り入れた、よりわかりやすい授業の研究を続けていらっしゃいます。

学校生活を通し、友達や先生、先輩後輩とのつながりを大切に

「心深く、豊かな大人になってほしい」と日々、生徒たちの指導にあたられています。

## Ⅰ 物事を俯瞰で見る力を身につけ、理解できる喜びを知る

中学校・高等学校を通して数学は好きな科目でした。大学へ進学するとき、「将来はコンピューターの時代が来る」と考えて工学部へ進学しました。大学の大型コンピューターでプログラミングを学び、4年生では圧電センサーを研究。ますますその面白さにのめり込んでいきました。

卒業後はコンピューター会社のエンジニアになりたいと思っていたのですが、大手予備校でチューターのアルバイトをはじめたことで人生が変わりました。数学の勉強法などを教えるうちに「先生の教え方はよくわかる」といわれ、やりがいを感じられるようになったのです。徐々に教えることへの楽しさや魅力を感じるようになり、教員の道を選びました。

教員になって37年を迎えますが、数学の楽しさや奥深さを伝えたい思いで、わかりやすい授業をずっと心がけています。数学の面白さは、理解する喜びが得られることです。いろいろなことを学び、知識を重ねていくと、物事を俯瞰で見ることができるようになります。今まで断片的に学んでいたことが一つにつながり「こういうことだったんだ!」と理解ができたときの感動を生徒たちにも知ってもらいたい。俯瞰でき

てようやくやっていたことの意味がわかり、その深さが見えてくるのです。数学に限らず、歴史や文学もそうだと思います。文化や背景が分かると、より文学や歴史も楽しくなる。それらを深く知り、俯瞰できた瞬間は大人でも楽しいものです。

また、建築中の新校舎には全教室に電子黒板が導入されます。そこでICTを積極的に活用し、さらに新しい学びへと広げていきたいと考えています。近い将来、ICTを利用した学びの方法が大きく変わる授業のイノベーションが起こることを信じています。

## Ⅱ 学校生活で人間関係を育み、本物に触れる経験を

ただ、いくら科学的な進歩で、どこに居ても授業が受けられるような時代になったとしても、学校でしか学べないこともたくさんあります。それは人と人との交流です。学校生活は社会の縮図。友達や先生、先輩、後輩など多くの人と関わりながら、ぜひ自分自身を成長させてほしいと思います。

金城学院には、キリスト教主義に基

づいた深い学びができる環境があります。中高一貫教育の6年間で多彩な教育プログラムを実践し、さまざまな形で本物に触れることができます。このすばらしい環境の中で、理解する喜びを実感しながらいろいろな経験を積んでほしい。またこれら多くの学びを通じて、心豊かな大人になってほしいと願っています。

### 加藤先生はどんな人!?

昨年度担任クラスの級長と副級長、顧問のバレー部員に先生の印象を聞きました。「明るくて授業もわかりやすいです」「優しくしてノリがよく、癒し系の先生です」と温かなお人柄が窺える声が聞かれました。部活動でも「心が広く愛に満ち溢れた先生。指導するときは怒らず優しく注意してください」「生徒思いで、私たちの相談に乗ってくださる先生です」と親身に指導される様子が窺えました。

